2019/06/21 プログラミング演習

目的

この演習においてはオブジェクト指向プログラミングにおける設計方針の基礎について学ぶ。

装置/ツール

- Visual Studio
- MacBook Pro

実験

問題8.1

実験書図8.2のプログラムを作成し、ソースコードと実行結果を報告しなさい。また、なぜgetInstanceメソッドを複数回呼び出してもインスタンスが変化しないのか説明しなさい。

ソースコードを図8.1.1に示す。

```
using System;
namespace chapter8_1
   public class Earth
       private static Earth own = null;
       private string creator;
       private Earth()
           Console.WriteLine("地球が作られました。");
       }
       public static Earth getInstance()
           if(Earth.own == null)
           {
               Earth.own = new Earth();
               Earth.own.creator = "神";
           return Earth.own;
       }
       public string getCreatorName()
           return this.creator;
       }
       public void setCreatorName(string gname)
           this.creator = gname;
   }
   public class Terminal
       public static void Main(string[] args)
           Earth e1 = Earth.getInstance();
           Console.WriteLine("この星(e1)は誰が作ったのか?: {0}", e1.getCreatorName());
           Earth e2 = Earth.getInstance();
           Console.WriteLine("この星(e2)は誰が作ったのか?: {0}", e2.getCreatorName());
           e1.setCreatorName("俺");
           Console.WriteLine("この星(e1)は誰が作ったのか?: {0}", e1.getCreatorName());
           Console.WriteLine("この星(e2)は誰が作ったのか?: {0}", e2.getCreatorName());
       }
   }
}
```

図8.1.1 ソースコード



図8.1.2 実行結果

Singletonパターンだから

問題8.2

実験書図8.4のプログラムを実装しスクリーンショットを報告しなさい。また、Factory Methodパターンに該当するクラスを列挙し、パターンのどのクラスに対応するか説明しあんさい。

実行結果を図8.2.1に示す。

```
nterfno — chapter8_2.dll — 80×24
                         ~ - chapter8_2.dll
食品の状態チェッカーです。
調べたい食品がオレンジなら1を、りんごなら2を入力してください。
食品を購入してから何日経過したか入力してください。
4
1 4
オレンジを選択しました。
熟成度合いは1です。
まだ食べられます。
[Press any key to continue...
logout
Saving session...
...copying shared history...
...saving history...truncating history files...
Deleting expired sessions...70 completed.
[プロセスが完了しました]
```

図8.2.1 実行結果

Factory Methodパターンに対応するクラス

- FoodFactory
- CompanyA
- CompanyB
- Food
- Apple
- Orange

問題8.3

Strategy パターンを使って、配列をソートするアルゴリズムを選択でき、加えてソート結果を表示するプログラムを作成しなさい。

ソースコードを図8.3.1に示す。

```
using System;
namespace chapter8_3
{
   public interface Sorting
       // int型の配列を返すメソッド
       int[] Sort(int[] array);
   // バブルソート
   public class Bubble : Sorting
       public int[] Sort(int[] array)
           Console.WriteLine("バブルソートをします。");
           int[] nums = array;
           int start, end, tmp;
           for (start = 1; start < nums.Length; start++)</pre>
           {
                for (end = nums.Length - 1; end >= start; end--)
                   if (nums[end - 1] > nums[end])
                       tmp = nums[end - 1];
                       nums[end - 1] = nums[end];
                       nums[end] = tmp;
                   }
               }
           }
           return nums;
       }
   }
   // 選択ソート
   public class Selection : Sorting
        public int[] Sort(int[] array)
           Console.WriteLine("選択ソートをします。");
           int[] nums = array;
           int n = nums.Length;
           int minj = 0;
           for (int i = 0; i < n; i++)
           {
               minj = i;
               for (int j = minj; j < n; j++)
                   if (nums[j] < nums[minj])</pre>
                       minj = j;
               int tmp = nums[i];
               nums[i] = nums[minj];
               nums[minj] = tmp;
           return nums;
       }
   // ソートするアルゴリズムのコンテクスト
   public class Algo
       private static Sorting _rithm;
       public int[] Sort(string type, int[] array)
```

```
if (type == "1")
               _rithm = new Bubble();
           }
           else if(type == "2")
               _rithm = new Selection();
           }
           else
           {
               Console.WriteLine("不正な入力です。ソートしませんでした。");
               return array;
           }
           return _rithm.Sort(array);
       }
   }
   public class Program
       static void Main(string[] args)
           int[] array = new int[5] { 11, 5, 9, 100, 200 };
           Console.WriteLine("バブルソートなら1を、選択ソートなら2を入力してください。");
           string type = Console.ReadLine();
           Algo _algorithm = new Algo();
           Console.WriteLine("result:");
           int[] result = _algorithm.Sort(type, array);
           for (int i=0;i<result.Length; i++)</pre>
               Console.Write(result[i] + " ");
      }
  }
}
```

図8.3.1 ソースコード

実行結果を図8.3.2と図8.3.3に示す。

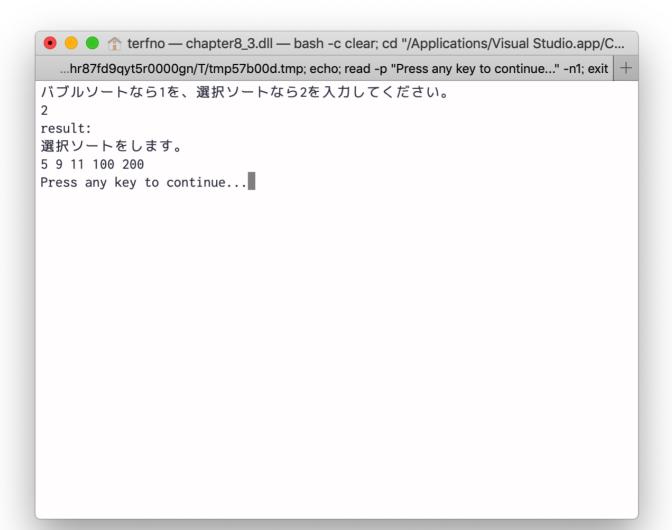




図8.3.3 実行結果

課題

レポート課題8.1

今回紹介したデザインパターン以外で、GoFのデザインパターンを3つ調べてどのようなクラス設計になるのかクラス図を示し、利用すべき状況と利用によって生まれる利点を示しなさい。

今回使用したデザインパターンは以下の3つで、SingletonとFactory Methodは生成に係るデザインパターン、Strategyは振る舞いに関するデザインパターンである。

- Singleton
- · Factory Method
- Strategy

Bridge

構造に係るデザインパターンとして、Bridgeがある。

クラスの中に複数の継承関係が存在する際に、それぞれを分離して考えることができる。そうすることでそれぞれのクラスを拡張する ことが容易になりクラス数も減らすことができる。

Bridgeのデザインパターンを適用する前のクラス図を図8.4.1.1に示す。適用後を図8.4.1.2に示す。

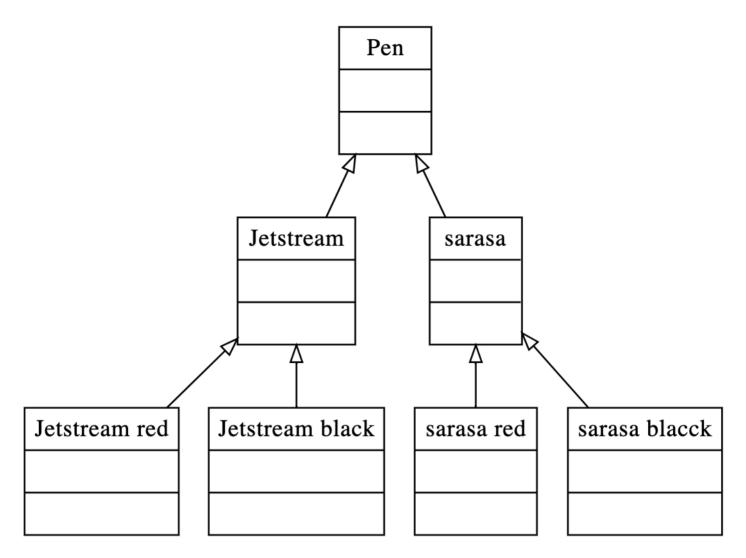


図8.4.1.1 Bridgeデザインパターン適用前

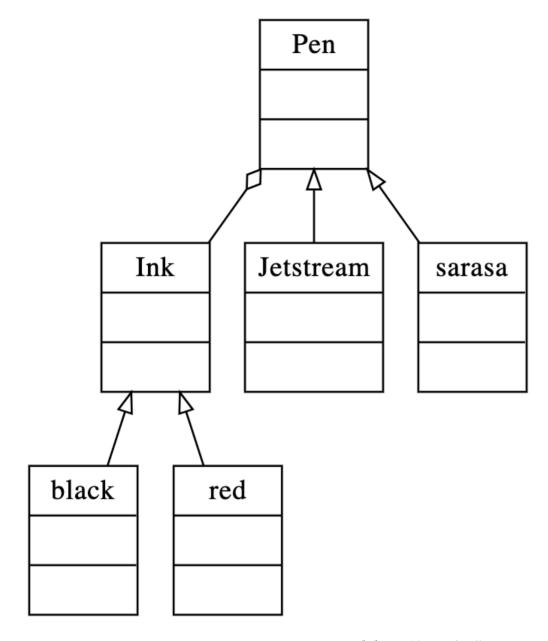


図8.4.1.2 Bridgeデザインパターン適用後

Future

マルチスレッドプログラミングに係るデザインパターンとしてFutureがある。JSのPromiseみたいな感じ。(カール・ヒューイットはPromiseという表現よりFutureが適切だと述べているらしい。)
Futureのクラスはインターフェースとして実装される。

クラス図を図8.4.2に示す。

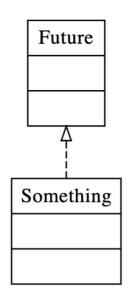


図8.4.2 Futureデザインパターンを使用した例

Prototype

生成に係るデザインパターンとしてPrototypeがある。

生成されるオブジェクトが典型的なインスタンスである場合に使用する。このオブジェクトを複製してさらにオブジェクトを作る。

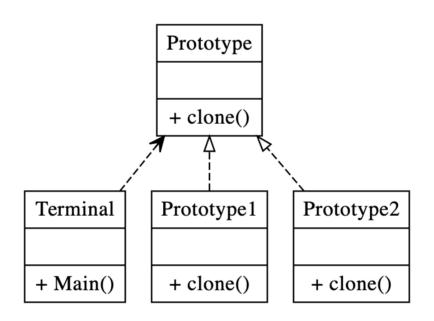


図8.4.3 Prototypeデザインパターンを使用した例

レポート課題8.2

インターフェース分離の原則において、インターフェースはどのように設計すべきか、調べてまとめなさい。

インターフェイス分離の原則とは、クライアントが使用しないメソッドに依存するよう強制されるべきではないということ。つまりインターフェイスはミニマムに用意しておいて、別途必要な場合は継承によって分離されたインターフェイスを用意するというスタイルでの設計が推奨されている。

レポート課題8.3

SOLID原則に基づいて、図8.4のプログラムの改良すべき点を説明しなさい。

依存関係逆転の原則に則って改良できる。現時点ではFoodクラスやFoodFactoryクラスの変更が子クラスのCompanyAや、Appleに影響している。